

前橋市臨江閣・龍海院見学 R7.11.12



臨江閣本館

明治 43 年に前橋市で開催された、1 府 14 県連合共進会に先立ち、貴賓館として建設された。

1 階には西洋間（板床大広間）1 室のほか、日本間が 7 室あり、2 階には舞台を備えた 150 畳（舞台を含めると 180 畳）の大広間が 1 室ある。



茶室

建築用材として、中山道安中宿の杉並木の巨木 30 本の払い下げを受けており、大広間周囲に柱目が美しく並び、今も大屋根を支えている。

建築にあたっては、工期の短さから、経験豊かな請負人として、市内の小曾根甚八が選ばれた。共進会後は、前橋市に引き渡され、近県にまれな大公会堂として利用されてきた。（平成 30 年国指定重要文化財に決定）（リーフレットから引用）





前橋藩主酒井家菩提寺
曹洞宗大珠山是字寺龍海院

岡崎城主だった松平清康公は徳川家康公の祖父。ある時、「是」の字を左手に握った夢を見た清康公は、竜溪院住職の模外惟俊大和尚にその意味を尋ねると、「この字は日下人に分けられ、これを握るということは、戦国の分裂の世が統一される吉兆。君公により実現しなくとも、孫の代までに実現する」との答えでした。

喜んだ清康公は、享禄三（1530）年、岡崎城下に模外禅師を開山とする満珠山是字寺龍海院を建立。徳川氏には既に大樹寺という菩提寺があったため、家老の酒井正親公に外護を命じ、以降は酒井氏の菩提寺になりました。

徳川家康公の江戸入城に伴って、酒井正親公の子重忠公は武州川越藩主に任命。菩提寺の龍海院も川越に移り、さらに慶長六（1601）年の前橋転封によって龍海院も前橋に移転しました。

以降、寛延二（1749）年の酒井氏姫路転封に際しても前橋に留まり、現在に至っています。（ホームページから引用）



山門



初代藩主酒井重忠公夫婦の墓所



石庭にある「さざれ石」

